

地域で支える子育て環境ー全てのこどもが安心して育つことができる地域を創るー

コーディネーター 矢藤 誠慈郎（和洋女子大学人文学部こども発達学科教授）

【科目概要】

令和5年4月1日に「こども基本法」が施行され、その基本理念は、全てのこどもが尊重され、大切にされ、健やかに育ち、社会的活動の主体として扱われることを求めている。国は「こどもまんなか社会」を目指しています。この講座では、多様なこどもたちの具体的な姿を踏まえて、その課題の解決のために、地域の住民あるいは専門家として「全てのこども」が健やかに育つために何ができるかについて、共に考えていきます。

回	日程	内容
1	令和7年 10月18日(土) 13:00～14:30	地域で子育てを支える（１） 子育てが幸せで楽しいものになるために、地域の住民や専門家にどのような支援ができるかについて、子どもとの向き合い方を踏まえて学びます。 （コーディネーターによる講座のガイダンスを冒頭に行います。） 講師 高祖 常子（子育てアドバイザー／キャリアコンサルタント） / 矢藤 誠慈郎（和洋女子大学人文学部こども発達学科教授）
2	令和7年 10月18日(土) 14:45～16:15	地域で子育てを支える（２） （１）での学びを踏まえたワークショップを通じて、地域で子育てを支える取組について考えます。 講師 高祖 常子 / 矢藤 誠慈郎
3	令和7年 11月1日(土) 13:00～14:30	特別な支援が必要なこどもを地域で支える（１） 耳が聞こえないこどもが音楽を楽しむなど、障害を持つこどもたちも等しく多様な経験をするために、地域の住民や専門家にどのような支援ができるかについて、事例を踏まえて学びます。 講師 外崎 純恵（淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科専任講師） / 矢藤 誠慈郎
4	令和7年 11月1日(土) 14:45～16:15	特別な支援が必要なこどもを地域で支える（２） （１）での学びを踏まえたワークショップを通じて、特別な支援が必要なこどもたちを地域で支えるための取組について考えます。 講師 外崎 純恵 / 矢藤 誠慈郎
5	令和7年 11月15日(土) 13:00～14:30	地域の力を活かしてこどもを支える（１） さまざまな地域住民の力を活かした子育て環境づくりについて、こどもと高齢者との交流事業やこども食堂の取組等を事例に学びます。 講師 権 法珠（和洋女子大学人文学部こども発達学科教授） / 矢藤 誠慈郎
6	令和7年 11月15日(土) 14:45～16:15	地域の力を活かしてこどもを支える（２） （１）での学びを踏まえたワークショップを通じて、地域の力を活かした子育て環境づくりの取組について考えます。 講師 権 法珠 / 矢藤 誠慈郎
7	令和7年 11月29日(土) 13:00～14:30	外国にルーツを持つこどもを地域で支える（１） 外国にルーツを持つこどもたちが等しく育ち、学ぶ権利を実現するために、地域の住民や専門家にどのような支援ができるかについて、実践的な事例を踏まえて学びます。 講師 内田 千春（東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科教授） / 矢藤 誠慈郎

回	日 程	内 容
8	令和7年 11月29日(土) 14:45～16:15	外国にルーツを持つ子どもを地域で支える（２） (１)での学びを踏まえたワークショップを通じて、外国にルーツを持つ子どもたちを地域で支えるための取組について考えます。 講師 内田 千春 / 矢藤 誠慈郎
9	令和7年 12月13日(土) 13:00～14:30	これまでの学びを振り返る ワークショップを通じてこれまでの学びを振り返り、地域で支える子育て環境づくりの課題を抽出します。 講師 矢藤 誠慈郎
10	令和7年 12月13日(土) 14:45～16:15	地域で支える子育て環境を創る 全ての子どもを地域で支えるために、どのような子育て環境を創り出していくかについて、ワークショップを通じてそれぞれの立場で具体的にできることを考えていきます。 講師 矢藤 誠慈郎

備考

- 科目の一部内容・スケジュール等は変更になる場合があります。
- この講座には保育があります。

講座の様子



地域で子育てを支える



特別な支援が必要な子どもを地域で支える

コーディネーターからのメッセージ

矢藤 誠慈郎 先生

現代では地域のつながりが弱まったなかで子育てが営まれており、親の責任や負担が大きな社会です。子ども家庭庁は「子どもまんなか社会」をうたい、全ての子どもが尊重され、愛され、安心して未来に向かって育っていけるよう、社会全体で子どもの育ちを支えることを目指しています。「全ての子ども」にどのような子どもたちがいて、その多様な子どもたちがどんな状況にあり、どんな支援を必要としているかについて、共に考えていきましょう。

